

## 1 はじめに

昨年度、総合学科における農業教育のあり方について、栽培系の科目、加工系の科目、環境系の科目それぞれ単独の展開ではなく、関連性を持たせて様々な課題に対処できる人材を目指し取り組んでいることを紹介した。

これまでの自由に科目を選択できる体制から、来年度の新2年次生からは系列を重視し、2年次では8単位4科目、3年次では12単位6科目を一体として受講する体制となる。

したがって、現在よりもより専門的に学ぶことができるようになり、農業の各科目の関連性をもたせた授業の展開を模索している。

### <本校の生徒の在籍数>

#### 1年次 6学級

男子	女子	合計
89	126	215

#### 2年次

就職・専門学校希望者 A選択(3学級)			大学・医療系・公務員希望者 B選択(3学級)			合計		
男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
55	51	106	48	56	104	103	107	210

#### 3年次

就職・専門学校希望者 A選択(3学級)			大学・医療系・公務員希望者 B選択(4学級)			合計		
男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
47	56	103	38	76	114	85	132	217

生徒数合計			
男子	277	女子 365	642

## 2 本年度の取り組み

### (1) 農業科目を有する系列

本年度完成年度を迎え、生徒の選択の人数は右の表の通りである。

#### ① 生物生産系列

生物生産系列においては、各科目におけるばらつきはあるが、園芸と食品製造を柱にする系列として生徒の意欲も高く、それぞれの科目の中で意欲的に取り組んでいる。

農場経営との関わりでも園芸（野菜・草花・果樹）と食品製造の予算規模を縮小し、生徒の実習と農場の運営とができるだけ重なる形で実習等が行われており、生産と販売が自分たちの手で行われる体制をとり、キャリア教育という面でも充実しつつある。

その反面、水田(110a)と牧草地(1100a)は生徒との日常の学習とは離れているが、時間労務現業職員1名を配置し、予算面でも安定してきている。

田植えや稲刈り、牧草収穫などのときには生徒にも体験させるなどの取り組みも重視している。

#### ② 産業工学系列

産業工学系列は右の表の通りの科目群、選択人数である。

No7より下の科目は工業科目であり、林業、農業土木、工業の混在した系列である。

生徒の選択の人数も多く、建設や製造を中心とした職業に結びつける取り組みをしている。

しかし、なかなか一つの系列として一体となる取り組みができていない。

農業の科目を外し工業の系列として一つになることが望ましいと考える。

生物生産系列

No	年次	科目	人数
1	2・3	農業基礎	2
2	3	総合実習☆	20
3	2・3	農業情報	6
4	3	野菜○	10
5	3	果樹☆	20
6	3	草花○	10
7	3	農業機械	6
8	2	食品製造Ⅰ□	9
9	3	食品製造Ⅱ△	15
10	3	植物バイオ	2
11	3	食品流通△	15
12	2	生物活用	4
13	2	園芸□	9
14	3	課題研究(農)	20

産業工学系列

No	年次	科目	人数
1	3	森林科学	0
2	2・3	林産加工	11
3	3	農業土木設計	0
4	2	農業土木施工	15
5	2	測量Ⅰ	15
6	3	測量Ⅱ	11
7	2	工業基礎	33
8	3	実習	27
9	3	製図	4
10	2	数理基礎	12
11	2	機械工作Ⅰ	28
12	3	機械工作Ⅱ	33
13	2・3	機械設計	12
14	3	課題研究(工)	

(2) 1年次生徒「産業社会と人間」での取り組み

本校1年次は、「産業社会と人間」の他は全て普通科目である。

そのため職業意識の啓発や2年次からの系列選択にむけて系列ごとの体験学習を全1年次生（212名6クラス）に行なった。

時期は入学後間もない4月下旬から前期中間考査前の6月まで、6週にわたって行い生徒の進路意識の向上につなげるねらいがある。

生物生産系列においては、食の大切さと衛生面、安全第一の徹底を重視して指導した。

生物生産系列 食品製造「ソーセージ作り」



の	に	し	か	ニ	最
仕	入	た	り	ゴ	後
事	ろ	ソ	ま	カ	に
エ	と	ー	し	野	生
リ	ほ	セ	た	菜	物
難	っ	イ	を	を	生
し	と	じ	着	着	産
い	大	作	て	た	列
思	変	り	り	り	を
い	だ	の	し	ま	カ
ま	思	前	が	し	リ
し	う	に	え	ま	ま
た	の	お	て	す	し
	で	こ	ソ	・	農
	食	を	ー	食	業
	品	左	セ	品	の
	の	右	イ	の	系
	衛	左	じ	衛	列
	生	作	作	生	は
	面	業	り	に	リ
	は	は	を	っ	
	ほ	全	し	い	
	か	品	ま	て	
		会			
		社			

産業工学系列 農業土木「コンクリートの性質」



ほ	も	っ	り	は	学	私
も	通	に	し	コ	し	が
の	っ	ご	ま	コ	ま	産
を	み	す	し	ニ	し	業
件	ま	実	た	リ	た	社
取	し	際	コ	の	土	会
る	ま	に	ニ	性	木	の
す	し	・	リ	質	と	系
ご	た	卒	ト	を	機	列
い	か	業	が	学	械	体
な	っ	生	作	ん	系	験
と	た	が	っ	だ	に	し
思	け	っ	ら	り	っ	て
い	コ	う	・	て	は	
ま	ど	ン	に	強	じ	じ
し	・	ワ	な	度	め	め
	学	リ	っ	の	は	産
	校	ト	て	実	じ	業
	に	の	す	験	業	工
	残	階	ご	も	学	学
	る	段	が	し	木	を
	よ			見	ど	見
	う					

### (3) 2年次インターシップにおける取り組み

現2年次は系列を選択するのではなく、各科目ごと単独で選択するため系列の意識は低いが、農業科目を多数選択し、将来の進路を明確にしている生徒も多数いる。

そうした生徒は、インターンシップにおいても農家や食品会社などを希望している。時期は夏休み中の3～4日である。

体験後の感想でもさらに進路意識が高まり、農業科目の学習にも意欲的である。



草花農家



産直



建設会社



製パン工場

### (4) 2年次総合的学習の時間におけるコース別ゼミナール

2年次は総合学習において9月に前期3週と10月に後期2週にわたって5回、前期と後期2系列を選択し体験学習を行う。

生物生産系列においては、前期3回を園芸、後期2回を食品製造を行った。現2年次は系列ではなく科目ごとの選択であり、これにより新3年次の科目選択のオリエンテーションとしての役割も果たしている。

また、さらにキャリア教育という面でも重視して行っている。





さし木による増殖



園芸クラフト



ジャム作り



クッキー作り

### 3 来年度からの系列選択について

#### (1) 系列選択の方法

来年度の新2年次より現2・3年次の科目選択から系列選択となる。これは就職・専門学校希望者のA選択、大学・公務員希望者を対象とするB選択をまず選択し、A選択の生徒をさらに系列で選択させるものである。

① 就職・専門学校希望と大学・公務員希望の進路希望による選択。

<b>A 選択</b>	原則として、就職希望者、専門学校（医療系以外）希望者用 （専門教科を選択し、知識・技術を身につける。）
<b>B 選択</b>	原則として、大学・短大・医療系専門学校等希望者、公務員希望者用 （普通教科を深める、受験に対応する。）

② A 選択者（就職・専門学校希望者）が4つの系列を選択。

系列名	科目群の内容	選択の仕方
生活・福祉	家庭・福祉・看護関係	A 選択において、1つの系列を選択する。
生物生産	園芸・食品製造関係	
産業工学	機械・農業土木関係	
流通情報	商業・情報・流通関係	

(2)系列内の教育課程

**系列：生物生産**

科目名（単位数）				
<b>2年</b>	生物活用（2） 農業科学基礎（2） 農業情報処理（2） 食品製造（2）			
<b>3年</b>	<table border="1"> <tr> <td>食品製造（2） 食品流通（2） 野菜（2） 総合実習（2）</td> <td style="background-color: black; color: white; text-align: center;"><b>系列内 選択</b></td> <td>①果樹（2）＋草花（2） ②作物（2）＋農業機械（2）</td> </tr> </table>	食品製造（2） 食品流通（2） 野菜（2） 総合実習（2）	<b>系列内 選択</b>	①果樹（2）＋草花（2） ②作物（2）＋農業機械（2）
食品製造（2） 食品流通（2） 野菜（2） 総合実習（2）	<b>系列内 選択</b>	①果樹（2）＋草花（2） ②作物（2）＋農業機械（2）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培・食品製造系科目群</li> <li>・将来、農業関連、食品製造関連の産業に従事したい生徒向け</li> <li>・栽培と加工について学習するほか、危険物取扱者（丙・乙）などの資格取得にも取り組む。</li> </ul>				
系列外生徒対象科目 2年 生物活用(2) 3年次 草花(2) 植物バイオテクノロジー(2)				

**系列：産業工学**

科目名（単位数）				
<b>2年</b>	工業技術基礎（2） 機械工作（2） 機械設計（2） 測量（2）			
<b>3年</b>	<table border="1"> <tr> <td>機械工作（2） 製図（2） 実習（4）</td> <td style="background-color: black; color: white; text-align: center;"><b>系列内 選択</b></td> <td>①情報技術基礎（2）＋電気基礎（2） ②測量（2）＋農業土木施工（2）</td> </tr> </table>	機械工作（2） 製図（2） 実習（4）	<b>系列内 選択</b>	①情報技術基礎（2）＋電気基礎（2） ②測量（2）＋農業土木施工（2）
機械工作（2） 製図（2） 実習（4）	<b>系列内 選択</b>	①情報技術基礎（2）＋電気基礎（2） ②測量（2）＋農業土木施工（2）		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械、農業土木系科目群</li> <li>・機械製造関係、土木・建設関係の産業に従事したい生徒向け</li> <li>・ガス溶接技能講習、危険物取扱者（乙4類）などの資格取得をめざす。</li> </ul>				
系列外生徒対象科目 2年 工業技術基礎(2) 3年 工業技術基礎(2) 林産加工(2)				

上の表のように2年次で8単位、3年次で12単位（うち2科目4単位は系列内選択）を設定している。

また、A選択対象者の系列外の生徒対象の科目も2年次で2単位、3年次で2科目4単位設定した。

このように系列によって、体系的な学習をするほか、系列外の生徒にも幅広い知識の習得ができる総合学科ならではの取り組みを計画している。

4 来年度からの系列を意識した教育内容の充実

本年度までは、総合学科の生徒の選択は科目選択であり、幅広い知識や興味関心に応える内容であったが、来年度の2年次生からより深い知識や技術の習得に主眼をおいた内容

にしていきたいと考えている。

そのために、本年度から1年次生の「産業社会と人間」の時間における体験学習を開始し、来年度以降もさらに農業教育・体験学習の充実を図っていく。

### (1) 生物生産系列

生物生産系列は栽培と食品加工を柱に教育課程を設定している。

2年次において部門に意識的に分けることなく、それぞれの関わり、全体的な栽培の流れを基礎基本を重視して行う。3年次に野菜、草花、果樹、食品流通などの専門的な科目を設定して、より深い知識の習得を目指す。

また、地域の農家や加工工場などのインターンシップや企業見学などとおし、社会との関わり、進路意識の向上を目指す。

来年度の系列選択における内容の充実を目指しているが、現2・3年次生にもできるところから専門的な知識や施設見学を行っている。

下の写真は、本校水田での収穫から、ライスセンターによる乾燥、そして精米出荷までの過程を見学等で学習している様子である。



本校水田での稲刈り



ライスセンター



カントリーエレベーター



精米・出荷

### (2) 産業工学系列

機械系の科目の他、農業土木についても系列内の選択科目として残している。

5 今年度の課題とまとめ

総合学科校として3年が過ぎようとしており、その中での農業教育の位置づけが、はっきりし始めているが、まだ試行錯誤の状態が続いている。

多様な生徒の進路や興味関心に応えるとともに、いかに専門を深めていくかという視点は今後も継続して研究していかなければならないと考える。

現在まで農業科目を選択した生徒の状況は、興味関心も高く意欲的である。こうした生徒に応えられる農業教育を目指していきたいと考えている。

<平成24年度 新2年次生の系列ごとの希望人数>

	系 列	人 数	自由選択	人 数
A 選択 (133名)	生活・福祉	22	生物活用 (A選択生物 生産系列以外 の生徒選択)	23
	<span style="border: 1px solid black;">生物生産</span>	<span style="border: 1px solid black;">28</span>		
	産業工学	33		
	流通情報<流通系>	18		
	流通情報<情報系>	32		
B 選択	(大学・医療系・公務員)	79	合計	212名

<平成24年度 新3年生の農業の科目ごと希望数>

総合実習8名 野菜16名 果樹8名 草花16名 農業機械8名 食品製造Ⅱ9名 植物バイオ10名 食品流通9名 森林科学21名 農業土木設計7名 測量Ⅱ7名 課題研究(農業をテーマとする卒業研究) 27名
---